

令和8年度（2026年度）第2回東海市3R推進協議会会議録

日時 令和8年（2026年）7月14日（火）

午後2時から

場所 東海市芸術劇場会議室（2階）

1 出席者

(1) 協議会委員（10人）

安部 浩通 委員長

酒井 雅代 副委員長

新井 宝三 委員

平井 正吉 委員

白羽 圭子 委員

龍田 昭一 委員

毛利 まり子 委員

蟹江 晃男 委員

古賀 祐子 委員

迫分 僚子 委員

(2) 事務局（5人）

林課長、小島統括主任、手塚統括主任、安井主任、加藤主事

2 欠席者

0人

3 傍聴者

0人

4 議題

協議事項

(1) ごみ指定袋表記変更について

（資料に基づき事務局から説明）

【蟹江委員】

表記変更はどのような表記に変更したのでしょうか。

【龍田委員】

このO・T・K・M市のそれぞれの変更内容は確認できますか。

【新井委員】

市名は出していけないのでしょうか。

【事務局】

各市に確認をとっているわけではないため、ここでは控えさせてください。
O市は「燃やせるごみ」から「燃やすしかないごみ」、K市は「燃やすごみ」から「燃やすしかないごみ（分別がんばったけどこれ以上はリサイクルできないごみ）」、M市は「燃えるごみ専用」から「燃やすしかないごみ専用」、T市は「燃えるごみ」から「燃やすしかないごみ」に変更になっております。

【龍田委員】

色や規格などの変更はなく、言葉だけを変えたということでしょうか。

【事務局】

色も字体も同じです。T市については、最初はチラシでゴミ袋の名称変更の案内を行っていました。また実際この燃えるごみから資源の方に移ったという市はK市しかありません。今の所は逆に可燃ごみの方が増えているという状況にもなっております。袋の名称だけでは効果が少ないのかと思います、最低でもゴミ収集場所で看板などを使って目につくようにしなければ効果は薄いのかなという気はしております。ただそれに対して費用が結構かかってしまう点がネックなのかと考えております。

【安部委員】

4市が一斉にやったのは何か理由があったのでしょうか。

【事務局】

流行りというわけではありませんが、1つこういった市の公式的な事例ができましたというふうに話題ができると、他の市もあまりお金をかけずに認知をしていただける機会にもなるため、皆さん採用しているみたいです。

【酒井委員】

何か名前を変えてからゴミを捨てなくなったなどの効果があるのでしょうか。

【事務局】

袋の名称だけでは効果が少ないのかと思います、最低でもゴミ収集場所で看板などを使って目につくようにしなければ効果は薄いのかなという気はしてお

ります。ただそれに対して費用が結構かかってしまう点がネックなのかと考えております。私の事例になってしまいますが、袋の形も字体も全然変わらないので、多くの人はあまり分かっていないのではないかと思います。

【新井委員】

プラスチックは燃やせたりするので「燃やすしかないごみ」というのは逆に分かりづらくなってしまうのではないかと思います。費用面で見ると、言葉を変えるだけでここまで予算がかかると費用対効果をしっかり見て考えないといけないのではないかと思います。

【事務局】

費用対効果を考えると、なにかと抱き合わせでやるのであれば効果はあるのかと思いますが、ただの名称だけの変更だとあまり効果が得られないかと思えます。

【龍田委員】

ごみ指定袋の料金改定というのが、一番効果がありそうですが、料金改定をしたら減った、変わらなかったなどの事例などはあるのでしょうか。

【事務局】

アンケートの回答をいただいた自治体ではないですが、可燃袋20円だったものを40円にして、プラスチックの方も10円に料金改定をしてごみの減量化が見込めたという自治体も中にはあります。

【古賀委員】

このアンケート結果をみて思っていたよりもごみの減量に貢献していないのかなと思いました。また表記変更でかかる費用が400万円から最大1,000万円を超える状況で、表記変更だけでこれだけの費用がかかるのであれば急ぎでやることではないかもしれないと感じました。

【迫分委員】

何点かありますが、まずアンケート結果のところで、ごみの減少率がありますが、実施した令和6年から7年よりも、やっていない時の方が、減少率が大きいところもあるため言葉遊びだけで終わってしまっているのではないかという懸念があります。次に東海市の1人あたりのごみの排出率は低かった印象で、この4市の一人あたりのごみ排出率が書かれていないので、もし元々大きい所

であれば、ちょっとしたキャンペーンで減ることがあるのだろうけれど、東海市の場合は言葉を変えたからといってすぐに効果が出るのかなという疑問があります。あともう1つが、私の場合ですが、家でごみを出す時は、ごみ指定袋に直接入れるのではなく、各部屋にごみ箱があります。もし減らすのであれば、そのごみを入れる時に減らす工夫や意識付けをしていくのがいいのかと思うので、例えば「燃やすしかないごみシール」にして、志のある人に使ってくださいねという形で試していくのはどうかと考えております。

【蟹江委員】

確か年間で見ると少しずつ人口が伸びているというふうに聞いたのですが、地域が活性化すればごみは出ると思うので、先ほどおっしゃられていた1人当たりのごみの排出量などのデータはあるといいのかと思います。

【事務局】

東海市は10万人都市という区切りでいうと、愛知県のなかでは一番ごみの排出が少ない自治体になっています。おっしゃられるように人口によってごみの状況は変わりますので比較するのも難しい点があります。ただ今回は東海市としてはさらにごみを減らしていくための施策として、袋の名称変更とその費用感を見た時に今なのか、そうではないかという点で考えた時に、事務局としては何かと抱き合わせの制度を変えた時などにやっていくのが良いのではないかとお話をさせていただいております。

【平井委員】

今財源の話も含まれているのかと思うのですが、表記を変える時に、袋の素材などでコストダウンするといった可能性はあるのでしょうか。そこから費用を捻出して補填するなどができると思うのですがいかがでしょうか。

【迫分委員】

以前素材を変えた時期があったのですが、それがすごい破れやすく、苦情が多く寄せられていました。今の袋は伸びるようにしてもらって使いやすいと思います。昔は紐などがついていましたが、今はレジ袋の大きいものなのでコストカットもされているのかと思います。

【平井委員】

もう1点質問ですが、リサイクル品に回せるごみの割合は全体のごみの何パーセントぐらいになるのでしょうか。ごみが少ないということだったので、おそらくリサイクル率が高いのだろうと推測するのですが、それによっては方向性が変わるのかと思い質問させていただきました。

【事務局】

自治体の収集方法や先ほどありました人口などによって結構バラバラになってしまいます。東海市の資源化率でいいますとファクターが少なく、多いか少ないか判断がつかないところですが、20%弱。その他の市でいいますとT市30%、K市26%、O市18%、M市6%程度と出ておりまして、東海市はやっていないのですが瓶の回収などをやっている所は資源化率が高くなると思いますので、市によって収集方法が変わればまた数値が変わってくるということかと思います。M市はかなり低いので、また独自のルールがあるのではないかと思います。

【平井委員】

ありがとうございます、すでにある程度ポイントは押さえられているんですね。いまインク代が高くなってということも話題ですが、例えば表記を変えることによって、そういった点でインク代を節約して、少し安くできるとかそういったことは可能性としてあるのでしょうか。

【事務局】

袋の制作会社にも確認したのですがそもそも今の所金額のアップはないということでした。

【龍田委員】

M市については、実際どのようにしているのでしょうか。

【事務局】

ここは資源回収を収集場所では行っておらず、拠点のところに持込みしかやっていないということが影響しているのではないかと思います。

【白羽委員】

最初「燃やすしかないごみ」というのを聞いた時はいいなと思っていたが、だんだん強迫観念というか、圧が強く感じてしまっていて今はちょっと反対ですね。

【安部委員】

皆さん御意見ありがとうございました。いただいた御意見をまとめると、やはり表記変更のみでは効果は薄いのかなと思いますし、費用もしつかりとかかってくるので、費用対効果が見込めるまでは実施しないということをお願いできればと思います。

(2) 第5次東海市ごみ処理基本計画の骨子案について

(資料に基づき事務局から説明)

【安部委員】

第3章から順にいきましょうか、御意見ありましたらよろしくお願いします。

【蟹江委員】

先ほどとも少し重なりますが、データをもう少し増やしてせつかく現状把握ということであれば、人口動態もそうですし、事業系、家庭系、それぞれ分けていろんな側面から確認ができるといいのかと思います。生活水準が良くなるとごみが増える。ただのごみというわけではなく、今後の11年の計画を作るのであれば東海市のビジョンなど人口なども踏まえて確認をしていった方がいいのではないかと感じました。

【事務局】

現状の資料にグラフがあるのですが、その中で、事業系と家庭系が混ざった形で表記させていただいておりますが、これの考察を行って今後11年の数量を推定する必要があるということでしょうか。

【蟹江委員】

この計画が策定された時には、全ての市民、事業者の方に促進を促していく基本方針になると考えております。ごみ削減については、市民も企業も現状すでに努力をされていると思います。特に事業者の方はその上で東海市の今後の目標値などが出てくるのであれば、それに沿って計画を作っていくと思いますから、もう少し多様なデータがあればというように考えておりました。

【事務局】

全てのごみの把握というのはこちらではわからなく、あくまでも西知多クリーンセンターに持ち込む事業計画になっております。その他のものに関しては企業ごとに産業廃棄物系で処理されていて傾向がどういうものが出てくるのか

分からないので網羅できるかは少し考えさせていただきたいです。また23ページに今後の推計値として作成していきます。それに当たっては、5ページにある人口動態や17ページにある今現在の家庭系ごみ、事業系ごみの総排出量グラフがあり、それを元に23ページを作っていくつもりではあります。もしそれ以外に情報としてあった方が良いというものがあればまた御意見をいただければと思います。

【蟹江委員】

ありがとうございます。

【龍田委員】

25ページで県の数値を見ながら目標をつけていきますとおっしゃっていたのですが、県の数値では東海市はどんな感じになっているのでしょうか。

【事務局】

今回計画期間が重なってしまして、県の方の環境審議会についても現時点ではまだ数値の検討はされておらず、早くても9月ということでした。東海市としては11月にパブリックコメントを予定しておりますが、そのパブリックコメントの公表より前には設定したいと考えております。

【龍田委員】

家庭系ごみに限っては、もちろんそれぞれ大なり小なり色々工夫はされていると思うのですが、どこの市でも基本的には同じような取組なのでしょうか。国があって県があって市が計画をつくるのでそうでしょうね。

【事務局】

おっしゃる通り国が設定した計画に対し県が揃えていき、さらにそれを各市が計画していくことになります。少し具体的にお伝えすると、基本施策5の「取扱いに注意を要するごみの適正排出の普及啓発」や、「災害発生時における処理体制の拡充」というのは国の方が重点的に動いているところです。数値目標に関しては、県が示す目標数値が出てくるので、そこを踏まえて今後の11年間の目標値にしようと考えております。

【酒井委員】

他部署もこの計画で同じ認識にしていくということで良かったでしょうか。カーボンニュートラルのガイドブックを見たのですが、市民の方ができること

として、「節電しよう」だけでなく、ごみを減らして、資源を生かすことだとおもうので「食品ロスをなくしましょう」、「地産地消」という言葉だけではなく「3R」という言葉はぜひ入れて欲しいですし、資源を循環していくといったことも明記していただき、市としても筋が通ったような見せ方ができるように気にかけていただけると良いのかと思いました。

【事務局】

ゼロカーボンを行っているのは同じ部署になるのでその辺りは一度話してみたいと思います。

【安部委員】

第4章で御意見ありましたらよろしくお願いします。

【酒井委員】

基本施策3「再使用、再生利用の推進」で、市民活動センターで行っている「おさがりクローゼット」という子ども服のリユースなどを行っているのですが、よくベビーカーなどを使ってくれませんかという声をいただくのですが、集まりすぎても困ってしまうため、お断りするとすごく残念そうにされていて。ここには木材や廃食用油などが書かれているのですが、使ったものをそのまま持ち込めて、欲しいと思う人が持っていけるような場所、ジモティースポットのような場所があると格段に資源を循環できると思います。難しいのは分かりますが、そういった内容をここにも記載していただきたいです。

【事務局】

ジモティースポットに関しては不動産の方などと相談してはいるのですが、進み具合は難航しています。先日半田市などでもオープンしていました。

【酒井委員】

どんどんできていて、「東海市はないですか」ということも聞かれるのですが、近隣の市にお持ち込みくださいとご案内する形になっています。そういった声は多いので、ニーズはあると思います。

【事務局】

いろんな分野の企業からも同じような声掛けがあるので、似たことができるような企業があれば探っていければと思います。

【迫分委員】

少し内容からずれてしまうのですが、皆さんは、さきほどの「おさがりクローゼット」は御存知でしょうか。私は保育園で働いているのですが、現状その小さい子ども達がいる現場にいて、見たことも聞いたこともなく、今お話を聞いていて、ベビーカーの話も聞いて驚いていました。つまりマッチングがうまくされない状態で進んでいないのではないかと考えております。資源の循環を進めていく時に、必要な人に必要な情報が届いていないのは問題なのでPRについては大至急なんとかしていく必要なのではないかと思いました。またPRの話で、これは東海市の基本計画なので載っていないくて当たり前かと思いますが、私もつい最近知ったのですが、アオキスーパーが日本航空と提携して、SAFという燃料の原料になる廃食油の回収を行っています。東海市でも加木屋の店舗で集めています。日本航空もアオキスーパーもホームページで出しているのですが市民にはあまり知られていない。こういった市全体として、取り組んでいるところや回収している拠点などをもっと周知された方が、市民にとっても改めて見直す機会になるのかなと思いました。もう1点29ページのところで、以前東海市では小学校4年生の社会見学は、横須賀小学校以外は清掃センターの見学を行っていたのですが、今は社会見学先がレゴランドに変わっています。学校の担当教員任せではどうしてもレゴランドになってしまうかとは思いますが、環境教育を推進していくのであれば教育委員会との連携なども含めて、忘れられないようにしていくことも大切ではないかと思いました。計画書以外の話になってしまって申し訳ありません。

【事務局】

市の公式ラインなどではアオキスーパーの件は案内していたりするのですが、発信については引き続き力を入れていきます。

【酒井委員】

例えば出生届を出す際など、色々情報をお伝えできるような場面でしっかりと市の取組を案内したりするなど、入り口をしっかりと整えることが大事だなと思いました。

【迫分委員】

よく聞くのは家仕舞の時ですね。ダンスとか木質系のものなどのリサイクルをしていくとか、どうやって持っていくといいかなど。お悔やみ窓口などで案

内ができるといいのかとおもいます。

【酒井委員】

介護施設などにチラシを持って行ったりもしたのですが、やはり対象になる方のところに情報が届けられると、と思います。「おさがりクローゼット」は市民活動センターに併設されています。3年になりまだまだ認知度は低いかもしれませんが、やらなかった頃と比べると年間7,500枚といった形で循環はしているので、成果はあると思います。物価高でうまく活用していただくでもいいですし、環境のことを意識していなかった方が活用していただくことをきっかけにうまく意識付けになったら良いなと思います。来られる方はまだ小さいお子さんをお持ちの方が多いので、もう少し違うターゲット層の方にも活用いただけたらと思います。

【安部委員】

第5章も含めてご意見がありましたらよろしくお願いします。

【酒井委員】

43ページの「食品関連事業者等の取組に対する支援」というところでフードシェアリングなどの話が出ていますが、第4次の時の3010運動について効果が出たのかどうか全く分からなかったため、企業を巻き込むとなるというのは難しいと思っています。さらに今回さらに難しくなるドギーバッグやフードシェアサービスですが、書くことは大事だと思う一方で、明記しておいて手も足もでないというのは困るのかなと思い、今の段階で実施の見込みができているのであればいいのですが、もう少し表現を見直しておいた方がいいのかなと少し心配になりました。

もう1点、今、小学校の非常食は配って終わりになっているような気がしていて、ローリングストックや食品ロスの削減への取組として学校側と協力して、何か体験型でできないですか、という相談ができると良いのかと思いました。

【事務局】

どちらかというと教員の負担軽減で今の形になっていると聞いております。

【迫分委員】

保育園の方では全部の保育園がやっています。期限が切れる前に備蓄しているアルファ米。これを給食に置き換えられるのですが、子どもは食べないです。

非常食の中でも一番食べやすいものではあると思いますが、それでも子どもからしたら非常食は食べにくいものです。お湯でやった場合と水でやった場合の実験なども行いつつ、実際に災害が起きた時にどうしたら子どもが食べられるかということもあるので、何もやっていないわけではないです。非常食の持ち帰りについては、昔は廃棄されていたと思いますが、今はそれが勿体無いから家に持って帰ることになったのだと思います。

【酒井委員】

やっていないとは言っていないくて、小学校でも一番ごみについて学ばせないといけない時期だと思うので、何かそう言った体験型の企画で意識付けとして効果的な取組が実施できればなと思っていたところです。

【事務局】

保育園はどこからそう言った話があるのでしょうか。

【迫分委員】

幼児保育課ですね、そのためにわざわざアルファ米を買っているわけではなく備蓄の中から回しているので、幼児保育課の方で聞いていただけるといいかと思います。

【事務局】

小学校はもう渡すぐらいしかできなくなってしまったという話は聞いております。

【迫分委員】

もともと給食とは目的が違うので、災害時に対応している方が大きいので、フードロスとセットで考えるのは難しいですね。

終了